



雪で覆われた森にチーンソ一の音が響き渡る。苫小牧東部地域(苫東)北端の安平町遠浅。仕事が休みの週末になると、早朝から日暮れまで風倒木の処理に汗を流す。「つらい作業に思われるけど、手入れして美しい風景をつくることは達成感があるんです」

苫東の森を守る「苫東環境コモンズ」事務局 草薙 健さん(58)



# 「美しい森」追い求め

今月上旬にNPO法人の認証を受けた。雑木の除伐や、歩きながら自然を楽しむフラットパスのルート整備などを予定で、「勇払原野の風土を多くの人と共有したい」と夢は膨らむ。

かかれたのは子どものころから。故郷の山形市の自宅近くにあった果樹園や鎮守の森が原風景だ。

北大農学部林学科に入学し、森林美学を専攻。「林業として立派な木をつくるより、心が落ち着く、歩いてみ

たくなるような美的な森林をどうやってつくれるかの方に興味があった」

森づくりの技術者をあなどれない多様な魅力がたくさんある。アークセスもしやすい。うづめて悩む人から「居心地がいい」と喜ばれることも作業の励みに

社が破綻した98年に退職するまで緑地管理を担当した。

会社には森づくりのマニュアルはなく、自分で作り上げた。大学で学んだ森林美学の実践を試みた。「広い緑地や温原の中でさまざまな体験ができたことは本当に幸運だった」と振り返る。

退職後も、株式会社苫東の許可を得て、除伐や草刈などのボランティアを募り、活動を本格化させる。

昨年、札幌の団体がNPOの趣旨に共感し、早くも手伝いに来てくれるようになった。「平たんな土地でこんな楽しい作業ができるなんて思ってもみなかったと喜ばれた」と感謝する。

ただ、広大な土地だけに1人で手掛けることはできない。株式会社苫東の計画では、約3200畝を緑地として残す方針だ。「年間10畝ずつやっても300年以上はかかる」。

今春からNPOの賛同者を募り、活動を本格化させる。

<略歴> くさかり・たけし 1951年、山形市生まれ。北大農学部林学科を卒業後、苫小牧東部開発に入社。退職後、開発局の外郭団体・道開発協会で研究員を務める。苫小牧で妻と長男の3人暮らし